

# 職場の安全衛生

— 改善事例 — 1

労働安全コンサルタント 北原 雅彦

はじめまして。私は定年まで労働基準監督官の仕事をしてきました。労働基準監督官の主な仕事は、労働安全衛生法などの所管の法規を、事業場に順守していただくことでした。

しかし、現在は、安全衛生や労務管理に関して、その企業がより良い判断、行動をとれるように支援させていただくことを、

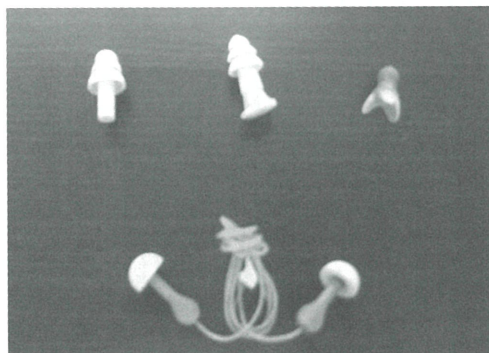
主な仕事としています。具体的には、その企業の安全衛生管理部門や現場のメンバーと、現場で現物を見ながらコミュニケーションを交わし、安全性と生産性を高める知恵、ノウハウ、改善方法をより多く生み出していくことを、最重要課題として活動しています。

とある会社の工場を安全衛生管理部門の方や現場の管理者の方たちと巡視していたときのことです。ある建屋に入りますと、工事現場などで経験する会話がしにくい程の騒音が出ていました。

騒音対策を怠ると、長年勤務した多くの従業員が難聴になって労災認定になり、日常生活にも支障をきたすという事例が多くあったことを、思い

## 騒音はうるさいのに サイレントキラー

北原雅彦＝名古屋労務安全コーチング事務所所長(元岡崎労働基準監督署長)中小企業診断士、労働安全コンサルタント、社会保険労務士、RSTトレーナー、行政書士等、多数の資格を保有し、現在は企業の労務・安全衛生管理への支援を行っている。



耳栓のサンプル

出しました。

騒音障害は、短期間で影響は少ないのですが、長い年月放っておくと、じわじわ難聴にしていくサイレントキラーです。聞くと、その職場は、90 db (デシベル) を超える第三管理区分でした。耳栓をしてない作業者が多かったのも、たずねたところ「耳栓は会社で支給してはいますがなかなか付けてくれませんか」と、答えが返ってきました。

「業者の人に、いくつかサンプルを持ってきてもらい、現場の人に実際に付けてもらって、気に入ったものをつけてもらって見たらどうですか?」と言ってみました。2〜3か月後に、訪問した時、安全衛生管理部門のKさんが「耳栓のサンプル、これです」と、私に、いくつかの耳栓を見せてくれました。

それが、この掲載してあるいくつかの耳栓です。

「職場の人に好きなものを選んでもらいました」と、Kさんが言いました。「一番人気のあった耳栓は、どれだったんですか?」と、尋ねたところ「これです」とちょっと変わったデザインの耳栓を指してくれました。「一番高くて、一個600円します」と答えてくれました。

(写真)